



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.41 2023. 11. 26 発行

思いっきり使って！

ルカによる福音書 1章 5—25節

ごきげんよう！

牧師 梅津 裕美

星野富弘さんの作品の中に「命一式」という詩画があります。イエスさまにいただいた「新しい命」、大切なあまり仕舞いこんでしまうことも、イエスさまが見てくださるから、安心して思い切って使って行きたい…事故で体が動かせなくなった星野さんにイエスさまが会ってくださり、希望のある新しい命に生かしてくださいました。それでも、仕舞いこんでしまいそうになる…そういう自分を自覚して、使い込めばよい味も出てくることでしょうかとユーモアまで添えて、思いっきり使って行きたいと歌っているのです。

今年洗礼を受けた友人にこの絵葉書を贈りました。彼女の生い立ちは辛いことの繰り返しでしたが、神さまが御子イエスさまの命をかけて愛してくださった十字架と復活の出来事を知って、自分の過去と和らいて、神さまが与えてくださる将来を希望と感謝して洗礼を受けました。洗礼に至るまで、その教会の人々が彼女の魂のために尽くした姿も素晴らしいものでした。この詩を読んだ彼女は、星野さんが動かせない体で筆を口にくわえてこの作品を描いたことに驚き、「福音があるところで人は変わる」と確信しました。そして、彼女の周りの人々が過去と和らげない苦しみに悩んでいることを想いながら、そこに福音を届けたいと目を輝かせました。身近な人々のために新しい命を思いっきり使いたいと夢見る彼女の姿に、「まるであなたが牧師さんみたいだね」と一緒に笑いました。つらい生い立ちでありながら、こんなに前向きに生きられるように人を創り変える神さまは何とすばらしいお方かと牧師の私が改めて神さまがなさる御業に驚嘆しました。クリスマスの出来事に変えられた大勢の人々がいました。年老いたザカリヤ夫婦、マリアとヨセフ、羊飼いたち、博士たち、人の目には見えづらい世界の隅々をご覧になってそこに福音の光を届ける神さまの慈しみに感謝します。

堀内長老からのメッセージ



11月の初めに荻窪清水教会では星野富弘アート展が開催され、教会の皆さんの知り合いや近所の方が星野富弘さんの詩画を鑑賞してくださいました。星野さんは、けがで入院中に詩画を描き始め、そしてキリストに出会いました。数多くの作品の中から、旧約聖書・詩編23編をテーマにした作品を紹介します。作品の題名は「シクラメンと聖書の言葉」(1976年)です。この作品がのっている書籍、『詩画とともに生きる』(Gakken)の中で星野さんはこのように記しています。「前橋キリスト教会からクリスマスプレゼントにいただくまで、見たこともなかった花だった。洗礼を受けた私には、つぼみのかたちが、下を向いて祈っている人のように見えた。そこで、シクラメンと聖書が結びついて、聖書の詩篇の中で、もっとも好きな詩を書いた。『たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。』詩篇23篇は、そのころからずっと私に力を与え、慰めてくれた」。はるか昔、旧約の時代に書かれた詩が今を生きる星野富弘さん、そして私たちに力を与え、慰めの言葉となっています。(聖句は新改訳聖書)